

郷土文学資料センター だより

第5号 2005年5月14日

附属郷土文学資料センター設立の頃のことなど —最終講義抄録—

熊本 守雄

(尾道大学大学院日本文学研究科教授)

私が文献学や書誌学といった学問に心を寄せるようになった、私の心の中における原風景とでもいったところからお話ししてみようと思います。

私の父は、愛書家であり、多くの本を所有していた蔵書家でもありました。ですが、広島に投下された原爆によって、ほとんど灰燼に帰してしまいました。文字通り、灰と煙になってしまったのです。爆心地から1.5キロの距離にあった我が家周辺は、全て燃え尽きて、数日で煙も出なくなったのに、我が家のある所からは、その後、何日も、燃えきらなかった本から煙が出づけた、と幼い頃、私は聞かされました。一旦、燃えてしまうと、どのような貴重な本も、この世から姿を消してしまうものだ、ということを、幼いなりに感じたわけです。その後、大学に入って、国文学の世界に本格的に関わるようになって、多くの貴重な本が、人災も含めて、災害等で、この世から姿を消してしまったということを知りました。

多くの貴重な本が失われた出来事をいくつか列挙してみると、応仁の乱、幕末から明治の初めの時期の廃仏毀釈の頃、大正12年9月1日の関東大震災、第二次世界大戦の空襲（水戸徳川家の彰考館文庫、広島市立浅野図書館、山口県では徳山の児玉文庫、赤間神宮の長門本平家物語）、最近では十年前の阪神淡路大震災、更には、昨年末の新潟県中越地震、と挙げることができます。特に、墨と筆を使って、和紙に書写された写本は、この世には同一の本は他になくて、オリジナルなものであって、その本一本しかないのだ、ということを強く感じるようになりました。その本がなくなるということは、写本の世界においては、全く同じ本は他にはないわけですから、永遠に姿を消してしまい、とりかえしのつかないことなのだ、ということを強く実感できるようになりました。

そういうことで、三十九年前に、山口県立大学の前身である山口女子短期大学に赴任するとすぐに、県下に伝存している文献のうち、写本・版本の所在調査を始めました。夏休みを利用して、学生諸君にも、出身地において調査をしてもらいました。

当時は、県下の図書館における写本の管理・保存状態は、決して良くはありませんでした。司書の資格を持った人が一人もいない図書館も少なくありませんでした。又、図書館の職員には、退職前の職員をあてて、退職前に少し樂をさせてあげようといった雰囲気の所もありました。職員の数も少なく、新規購入の図書の手続きに追われて、それで手一杯という状態で、明治の頃から地元の篤志家より寄贈された多くの図書が、変体仮名が読めないということもあって、全くの手つかずの、未整理の状態であり、寄贈された図書の台帳も作られていない所もありました。紙魚によって汚損された図書が処分されたり、誰も知らないところで、古い本がこの世から姿を消すということもあります。蔵書目録も整備されていませんから、当然、世間には、所在も知られず、誰も利用できない、宝の持ち腐れのようなところもありました。そこで、地道な調査を積み重ねて、それを文献目録として、昭和55年から57年にかけて、『山口県に伝存する国語学・国文学・国語教育関係文献（写本・版本）目録』四冊にまとめることができました。

この文献目録を作った頃、全国各地で文学館設置の動きが盛んになっておりました。かつての山口県は、文化事業の面では、先進性をもった県でした。大正から昭和の初めにかけては、図書館活動において、信濃教育会の長野県をおさえて、全国一でした。まだ世も落ち着いていなかった戦後間もない頃ですが、田中龍夫知事の時代に『山口県文化史』が全国に先駆けて出版されました。学界では今でも高く評価され、語り草になっています。

又、小沢太郎知事の時代には「山口県文書館」が設置されました。ただ、文学館の設立については、山口県は後れをとっていました。そこで山口女子大学としては、山口県文学館の設置趣意書をもって、当時の中山清次学長が、県の田中武夫総務部長さんに話を持っていました。一方、詩人の和田健先生や新南陽市選出の県会議員などを勤められた徳原啓氏などは、当時、県の教育長でいらっしゃった高山治前学長に山口県近代文学館の開設を陳情していられました。そこで、山口県教育委員会社会教育課、県立図書館、県立文書館、総務部学事文書課、文化課、山口女子大学の関係者が集い、協議・調整の結果、山口女子大学に昭和61年4月から附属郷土文学資料センターが設立されることになりました。そういう経緯もあって、附属郷土文学資料センターは、単に大学の附属機関という性格にとどまらず、全県下の期待を担って設置された組織であり、そうした背景と歴史を背負ったものといえます。それ以後、多くの方々のご理解とご協力をいただいて、今や一万点を越える資料を寄贈いただいております。

今日、お越しいただいている多田美千代先生には、嘉村礪多関係の図書・資料、更には礪多愛用の書見台などの寄贈に関わって、ご遺族と折衝いただきなど、いろいろとご尽力いただいております。又、田村悌夫先生には、種田山頭火と深い交流のあった渡辺砂吐流さん関係の資料や自由律俳句関係の「層雲」のバックナンバー等を寄贈いただくことになるまでの、道筋を作っていただきました。

(当資料センター前所長・本学名誉教授)

彙報

<お知らせ> 平成17年度 公開講座 やまぐちの文学

会場：豊北生涯学習センター

時間：13:30～15:00

- | | | |
|------|------------------------------|------------------|
| 5.21 | 山口県の女性文学者たち～中本たか子と宇野千代～ | 福田百合子・中原中也記念館長 |
| 5.28 | 江戸戯作に描かれた大内 | 木越俊介・本学講師 |
| 6. 4 | 山頭火よもやま話 | 田村悌夫・山頭火ふるさと会副会長 |
| 6.11 | 防長学事始め『大内盛衰記』に見る大内氏の古代伝承を考える | 野口義廣・本学助教授 |
| 6.18 | 鶯流狂言の世界 | 稻田秀雄・本学教授 |

<報告> 資料展示 場所：3号館1F資料センター

期間：平成17年1月19日～2月18日まで

太田静一氏寄贈資料－川端康成・井伏鱒二の書簡等－

の展示を行いました。（山口県以外にも福岡県・島根県など
から多数の方々の来訪を賜り、感謝申し上げます。）

寺内文庫と熊本先生と

國 守 進

(当資料センター運営協議会委員)

永きにわたって大学の国文学科と郷土文学資料センターを支えてこられた熊本先生が大学を去られることになった。専攻分野こそ違ってはいたが、私は調査や編集の仕事を一緒にしたこと多かったこともあって、感慨を禁じえない。

私が大学に入って間もない昭和49年から熊本先生と寺内文庫の調査を始めた。幸い、50年度の文部省科研費を得たため大いに張り切り、先生と一緒に天理大学などに出かけたことであった。

私はまた大磯の寺内家を訪ねて資料を提供していただいた。先生には文庫の国文学関係図書の調査をお任せし、私は文庫成立の経緯や不慣れな朝鮮の古文書・簡牘の調査に苦労したものである。カードの作成には当時、新入ほやはやの安光裕子・齊藤（小松）恵子さんにアルバイトをお願いし、頑張ってもらった。『桜園寺内文庫の研究』はその成果である。その後、文庫の簡牘類は韓国に移ったが、文庫が大学の主要な文庫の柱であることは言うまでもない。

さらに、平成3年が創立五十周年にあたることから、昭和57年に記念誌の発行が企画され、五十年史の編集事業がスタートした。桜園会（同窓会）バックアップのもと、またも先生と一緒することになった。編集のメンバーには野口義廣・（故）清原万里氏、くしくも郷土文学資料センターのメンバーである。『山口女子大学五十年史』（平成4年刊）はその成果。編集の仕事は資料の博捜が前提となるが、大学資料保存の不十分さを痛感したことであった。たまたま最近、専修大学の記念誌を戴いたが、大学史資料課が置かれているのはいささか羨ましい。

県立大学史のなかで、郷土文学資料センターの営みが大きく記されるであろうこと、また熊本先生が今後ともセンターの発展に貢献されることを願って止まない。

(本学名誉教授)



写真：C館1Fの
資料センター書架

寄 贈 図 書

- 2004年10月 ~ 2005年3月 -

小島寿美子『詩集 溢れる不思議さの中に』／三隅豊州『川柳隨筆 の一くれ』／大串章『百鳥』
山口県小学校教育研究会国語部『読みがたり 山口のむかし話』／柳井市『ふるさとの碑』
岡村和美『河内淑子遺歌集 灯のこゑ』／山口の文化財を守る会『ふるさと山口』
中野孝之『大島郡の考古学』／岩国歴史館『岩国の俳句』／河村一郎『山県太華・吉田松陰考』
パンフレット「文芸フェスティバル 2004年9月9日～9月12日」／

柳井市立柳井図書館：柳井図書館叢書第20集・安政四年殿様御遠馬柳井御出室積普賢御参詣之記
岩崎俊彦『興隆寺文書を読むその一　一氏寺の文書から大内歴史を探る－』
岩崎俊彦：大内文化探訪会創立十五周年記念　大内氏壁書を読む－掲書による中世社会の探究－
山口県立山口図書館「山口県立山口図書館100年のあゆみ」／
ケンモッチャース・ラズーサ『ピカソ、その瞳を愛して』／長田昇『児玉源太郎』<3頁へ続く>
木戸洋子『歌集　輻たれ』／
小川宣「ああ回天」第九集　回天の戦後六十年　特攻基地から平和発信基地へ／
山懸泰『句集文集　無歴庵』／詩人・丸岡忠雄の会『丸岡忠雄全詩集』／三上照雄『街はそよ風』
松原伸夫『漱石「坊っちゃん」先生　弘中又一』／徳山曹達労働組合青年婦人部「草の実　28」
印内美和子『遠い六月』
谷千寿子『石城の『むかし話』その1 “たさあさあの茶店”』／同『その2 “悲恋の岩”』／
同『その3 “丁目のお地蔵さま”』／同『その4 “山姥の涙”』／同『その5 “石城の小天狗”』
同『その6 “判官の一荷石”』／同『その7 “番舎の番人”』／同『その8 “石城大師”』
同『その9 “月の夜に走る龍”』／同『その10 “獅子の穴”』／同『その11 “石城の祠祭”』
谷千寿子『石城の『風習』その壱 “なるなるなる”』／同『その式 “若水”』／
同『その参 “子宝拾い”』／同『その四 “菖蒲のお風呂”』／同『その五 “送り燈まつり”』
同『山口県地方の方言集』／同『付録　石城の年中行事　石城の風習』／
田村幸志郎『会津残照　遠き日々の日本人の情』／中村光子『「またかあー」走れ！おばさん』
玉木帛子『詩集　日の入江に』／松村久『本の周辺・やまぐち考』
藤井宏明『藤井宏明写真集　おせん淵　大佛文乃詩画集「おせん淵」より』
やまぐち十境の詩「竇水会秋季吟詠大会　平成12年11月23日」
加藤燿子舞踏作品「漂白の俳人山頭火　風の己のその声を聴く」／栗林和彦『一瞬の夢』
木本信昭『虫めがね遠めがね色めがね一』／木本信昭『虫めがね遠めがね色めがね二』
ふるさとやまぐちQ&A／第4回高校生文芸道場中国大会（山口大会）作品集
石田恭一『朕が不徳ノ致ス処　防府・中関沖事件　中根市之丞物語』／
藤本保太・第六句集『新千年記』／藤本保太・第五句集『マグマは動く』
福田正義『猿とインテリ　日中戦争前夜のコラム集』／
田村英子『花　一田村和助（萬頃）を偲んでー』／近間益子『山の断章　近間映良』
小島寿美子・現代日本詩人親書『透き通るぬくもりを』
宇部にっこり座・宇部にっこり座10周年記念誌「輝いて」／隨筆講座第5集「風花」
西野理郎追悼句集／桂文秋『句集農曆』／
生誕百年「宇野千代の世界展」実行委員会：生誕百年　宇野千代の世界
佐波公民館、他2「佐波の故里」／福田正義『展望前後　福田正義戦前の斗い』
井冬みなお『歌集　春の鐘』／浅尾法灯『思いやる心　こたえる心』／小松かた志『凡夫の抄』

~~~~~

編集後記　本号は、当センター前所長・熊本守雄本学名誉教授の退職記念という意味で当センターへの  
篤い思いを寄稿して頂き、巻頭に掲載しました。これまでの御尽力に感謝申し上げますと共に  
今後ともご支援ご教示を賜りますようお願い申し上げます。尚、同僚として、また先輩として  
調査・研究を共になさった國守進本学名誉教授に思い出の記をお願い致しました。(T)

■編集発行：山口県立大学附属郷土文学資料センター（〒753-8502 山口市桜島3-2-1）

TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251

■発行日：2005（平成17）年5月14日